



事業所評価

事業所評価 概要



事業所は提供するサービスを自ら評価すること、定期的に外部からの評価を受けることを義務付けられています。事業所評価は、以下の2つから成り立っています。

- 事業所自己評価

スタッフ一人一人が自らの取り組みを振り返ります。それをもとに事業所内でのミーティングを行い外部からの評価として看護師・見守り支援員の評価を頂き、次年度の改善計画を策定しました。



- 事業所外部評価

昨年度の事業所と地域とのかかわり方について、島民全員に聞き取り調査を実施しました。調査結果をもとにスタッフ間で課題の整理を行い、具体的な年間計画を策定しました。



事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	2017年2月20日
------------------	-----	------------

1. 初期支援（はじめのかかわり）	メンバー	米倉 國部 川原 宮前 中村 平田（前田）
-------------------	------	-----------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
① 前回の課題について取り組めましたか？	2人	2人	3人	人	7人

前回の改善計画と取組み結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人のニーズや情報は常勤が本人・家族と良く話し、パートに伝えるのが良いと思う →常勤ミーティングで話し合ったプランを全員で確認し、意見を出し合い完成させる 前回より全員で意見を出し合ったものをもとにプランを作成し、確認する流れに ・毎月のミーティングのなかで地域の方の事を話しあう時間を設ける →ミーティング内で決まった時間を設けてはいない。 ミーティングノートも活用し、必要ときに情報を共有し話し合い ・毎週月曜日の見守り支援会議に加え、毎月第2週月曜日の会議には常勤全員出席する →毎週月曜日、見守り支援会議実施。常勤全員出席での見守り支援会議は1月23日の実施のみ

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	2	4		1	7
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	2	2	3		7
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか？	3	2	2		7
③ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？		3	4		7

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング等での話し合いやミーティングノートも活用されて情報の共有はしやすくなった ・利用者さんのモニタリングを全員で意見を出してする事により情報も多くなり、共有もしやすい ・声掛けや気遣いは出来ている ・見守り支援会議の定期的な実施で、地域の高齢者の情報が得やすい ・看護師と情報共有しながら初期の関わりは出来ている

できていない点
<ul style="list-style-type: none"> ・本人、ご家族となかなか話が出来ていない ・関係づくりのための配慮が出来ていない ・長く泊り利用されている方に遠慮して、新しい利用者が事業所になれるまで時間がかかった ・困りごとに気づき、支援につなげて行く為の知識が不足している ・気になる情報も噂話で終わってしまう事が多い ・ご家族の不安や思いを聞く機会が作れていない ・気になる高齢者と継続して関わっていない ・プライベートでの関わりをどう支援につなげるか

次回までの具体的な改善計画
<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族、地域のニーズを整理し、利用の根拠を明確にして、見守り支援からスムーズにサービス利用につなげる ・生活の変わり目に家族、本人の気持ちを配慮する ・地域の方が他人事ではなく自分の事として考えられるような働きかけ→噂話：その情報への対策や背景と一緒に考える

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田 (前田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1人	3人	3人	人	7人

前回の改善計画と取組み結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサポートプランの目標を本人さんも一緒に再度確認し、日々の目標を決めていく →モニタリング、プラン作成時に本人さんと目標を確認 ・目標達成度を数値化・見える化し、モチベーションの向上を図る →目標達成度の数値化・見える化は未実施 ・毎朝の挨拶後に1日の予定や目標などをみんなで話し合う →挨拶時に1日の予定の確認実施。ご本人のやりたい事や目標はスタッフや日によって聞いたり、聞かなかったりである

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	2	4	1		7
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	5	1		7
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		2	5		7
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	3	3		7

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングでの発言、振り返り ・ご本人との目標の確認が出来ており、ご本人も理解されている ・前日出てきている要望や課題に対して、できるだけ早く、次のアクションにつなげている。 ・「～したい」という声を聞いたら、応える事が出来ている

できていない点
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間が短く、ご利用者とのかかわりが少ない ・ご本人の目標や「～したい」がまだよく把握できていない。ご家族にしっかりと共有できていない ・話し合いはできているが頻度が少ない ・当面の目標に向けての関わりではご本人の気持ちを前向きに動かす事が難しい ・突発的な「～したい」が長期的な目標に反する事があるが、その都度本人ときちんと話が出来ていない

次回までの具体的な改善計画
<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の「～したい」は記録で共有、ライフサポートプランに随時追加する。3か月ごとにモニタリングを実施し、ご本人、ご家族、スタッフ全員でご本人の目標を確認する ・ライフサポートプランを意識した関わりを

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

3. 日常生活の支援

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田（前田）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	1人	2人	3人	1人	7人

前回の改善計画と取組み結果

- これまでの暮らしや日常生活をより深く知るために年表作りをする（ご本人、ご家族と一緒に）
年表をすごろくにしてはどうか？「〇〇さんの人生ゲーム」.
→未実施

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？	2	2	2	1	7
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	3	4			7
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？		5	2		7
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	2	5			7
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	1	4	2		7

できている点

- ・体調の変化に気づき、共有できている
- ・以前の暮らし方は理解できている
- ・スタッフ全員で話し合い、マインドマップに落とし込むことで考えやすく、共有しやすくなった
- ・日々の朝礼での申し送りの内容が充実してきている

できていない点

- ・以前の暮らし方が把握できていない
- ・ミーティングの時に意見を聞いて初めて気づくことあり
- ・把握している事を記録に残す事、センター方式に書き込むことが出来ていない。
- ・ご利用者がご家族と過ごす事が少なく月に1、2回しかない
- ・アクシデントが起きてからの対策が表面的なものになっておりアクシデントを繰り返した。
- ・スタッフ間でお互いに十分なケアが出来ているかチェックできていない

次回までの具体的な改善計画

ライフサポートプランを生活記録にチェック出来ているので、毎週振り返りをして月曜日の朝礼で共有

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田 (前田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	2人	3人	2人	7人

前回の改善計画と取組み結果

- ・スタッフも交え、地域の方と少人数での話し合いの場を設け、ざっくばらんに今の事やこれからの事を話せる機会を作る
→未実施。外部評価を全島民への聞き取りにて実施予定
- ・関係図作りをする→未実施
- ・研修の機会を作り、私のアルバム作りをする→未実施

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	2	3	2		7
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	2	2	3		7
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	2	3	2		7
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	3	3		7

できている点

- ・自分たちだけでなく、今までの地域の方との関係性を知り、お手伝いをお願いしたりできている
- ・ご利用者の今までの事、現在のことはミーティングなどで把握できている
- ・ご本人の暮らしについてご本人に聞いたり、周囲、地域の人と話し合っ情報共有できている
- ・直接関わることの少ない方からも、意見を聞く機会を作っている

できていない点

- ・これまでの生活、人間関係を理解できていない
- ・まだ見守りが必要でない方への関わりのきっかけが作れず、話し合いの場も設けにくい
- ・自分たちが把握でするだけでなく、島民みんなが把握しやすい関係図作り。見える化
- ・自分たちだけで解決してしまうことが増えている
- ・話し合いの場を作る事についてスタッフ同士で協力出来なかった

次回までの具体的な改善計画

昔からの関係性を切らないため、また地域の中での新しいつながりを作るため事業所内で解決せず、地域の方の力を借りる橋渡し役を担う

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田 (前田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	2人	5人	人	人	7人

前回の改善計画と取組み結果

- ・地域を巻き込むための積極的な企画をもっとしたい
→たからカップ・ラジオ体操・ラジオ体操後朝ご飯会・夕涼み会・そうめん流し・草払い炊き出し・文化祭展示用宝島の地図作成・事業所避難訓練・年越しそば打ち
- ・事業所スタッフだけでその方を支えるのではなく、地域の行事などではご家族・地域の方にも積極的にお手伝いをお願いし、家族・地域一丸となってその方を支えられるようにしていく
→サロン・健康体操教室では見守り支援員さんにお手伝いや見守りを頼むことあり
地域の行事等で段差を登ったりする際に地域の方にお手伝いを頼む場面あり
→地域行事ではご家族・地域の方と交流できるよう橋渡し

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	4	2		7
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?		6	1		7
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	2	5			7
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	1	4	2		7

できている点

- ・本人の状態、ニーズに合わせた柔軟な支援
- ・ご利用者、ご家族の都合に合わせて関わっている

できていない点

- ・柔軟な支援と言われても動けない時がある
- ・地域の資源を使っている支援
- ・泊まりの利用の長期化が進んでいて、今後、必要なサービスを提供できない可能性がある。
- ・訪問にスタッフが行っている間、事業所にいる利用者のケアに取り組めていない

次回までの具体的な改善計画

- ・地域資源を発掘し、関係を深める働きかけ
- ・事業所の現状を知って頂く取り組み

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

6. 連携・協働

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田 (前田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	2人	5人	人	7人

前回の改善計画と取組み結果

- ・会議の場で意見を出しやすい、出やすい場の作り方の工夫が必要。グループワークなど
→運営推進会議の実施が少ない。運営推進会議の在り方を役場も含め検討予定
- ・これまでの見守り支援会議に加え、常勤全員参加の見守り支援会議の実施
→1月より実施開始

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	2	1	4		7
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	2	1	4		7
③	地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?	2	3	1		7
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	1	4	2		7

できている点

- ・地域のイベントへの参加
- ・見守り支援会議は継続できている
- ・地域の各種団体の活動にも参加出来、事業所に対する理解もしてもらっている
- ・地域の中での役割を意識的に担っている。
- ・木曜日の体操後に事業所でのお茶のみを呼びかけた

できていない点

- ・子供たちは良く事業所を訪れるが高齢者は2、3人であり、なかなか増えない
- ・ひろく地域の方に意見を頂くような会議の場は設けられていない。会議では意見が出づらい
- ・診療所への情報提供が足りていない

次回までの具体的な改善計画

- ・毎週日曜日に週報をまとめ、診療所・見守り支援員への情報提供を月曜日に行う
- ・老人会の活動予定を把握し、参加を促す声掛けや他団体との連携の呼びかけを行う

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

7. 運営

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田 (前田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	5人	2人	7人

前回の改善計画と取組み結果

- 「4. 地域での暮らしの支援」で示した少人数での話し合いを高齢者の方から始めて、島民全員と実施。求められている事や現状を知り、運営に活かしていく
→未実施。2月の外部評価の聞き取り実施予定

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	1	3	3		7
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	3	2	1	7
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	2	3	1	7
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	2	2	3		7

できている点

- ・ミーティングや朝礼の際に話す機会があり、発言できる
- ・地域の方との関わりの中で事業所への意見を聞く事がある
- ・ご利用者、地域の方からの意見を反映できている
- ・畑を集いの場として活用している

できていない点

- ・地域からの意見や苦情を共有するが取組みにはなかなかつながらない
- ・地域の方にたからの在り方について話は出来ていない
- ・積極的に地域と協働した取組みはできていない
- ・意見はあっても事業所だけで解決できないことが多い。地域を巻き込めていないことが原因ではないか。
- ・運営についてスタッフ全員で十分に話合えていない

次回までの具体的な改善計画

地域・職員からの改善のアイデア（実行タスク）を書き出し、もれの内容に実行につなげる

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田 (前田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	1人	3人	3人	7人

前回の改善計画と取組み結果

- ・自ら学びたい事を見つける。外部から講師（看護師・保健師等）を招いての研修の実施
→未実施
- ・地域の方や法人内の職員、来島された方など外部の方の力もお借りし、研修内容の充実を図る
→役場本砥さんによる研修、歯科医師来島時の研修を計画するが来島されず

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	2	3	1	1	7
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか		1	3	3	7
③	地域連絡会に参加していますか	2	2	2	1	7
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか		3	3	1	7

できている点

- ・月1回の研修の実施、参加
- ・島内での研修への積極的な参加
- ・リスクマネジメントへの取り組みは朝礼などでの共有により具体的に取り組んでいる
- ・個人的に、栄養管理や機能訓練の方法などに気になった事はその都度調べている

できていない点

- ・資格取得やスキルアップのための研修参加
- ・リスクマネジメントに関することを共有した後の行動が続かない
- ・利用者が限られる為、全身清拭など普段使わない技術が向上しない

次回までの具体的な改善計画

- ・研修計画を立てる際、診療所Nsや法人内から助言を頂き、自分たちが必要とする研修と自分たちに必要な研修の両方を取り入れられるようにする
- ・法人内の他事業所に講師を依頼し研修（出張・スカイプを利用してなど）を実施する
- ・自分たちが他事業所の研修の講師となる

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017年2月20日

9. 人権・プライバシー

メンバー 米倉 國部 川原 宮前 中村 平田（前田）

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組めましたか？	人	3 人	3人	1人	7人

前回の改善計画と取組み結果

- ・たからの契約について全員が知っておく必要あり。勉強会の実施→勉強会実施
- ・成年後見人制度について知る。勉強会の実施→未実施

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	身体拘束をしていない	5	2			7
②	虐待は行われていない	7				7
③	プライバシーが守られている	2	3	2		7
④	必要な方に成年後見制度を活用している		2	3	2	7
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	2	1	1	7

できている点

- ・身体拘束や虐待はしていない
- ・ご本人の人権を侵すような関わりはしていない
- ・プライバシーも守られている

できていない点

- ・成年後見人制度の活用、今のところご利用者にその必要性がない
- ・事業所内で、噂話のような印象を受ける会話がある。（個人の名前が出ていることがある。）
- ・個人情報が記載された書類がきちんと整理されていない

次回までの具体的な改善計画

- ・地域の方に、事業所の理念や人権、プライバシーの対しての考え方を理解してもらうよう告知の方法を考える
- ・入ってくる情報を噂話で終わらないよう前向きにとらえ、また情報をくれた方と情報の対象者双方のより良い関係づくりを考えていく

事業所自己評価



自己評価について看護師・見守り支援員に評価していただいた結果

- それぞれの自己評価の低さが気になる。謙遜なのか、本当にできてないのか。
- 事業所の改善計画をもとに、個別面談を行うことで取り組みを継続できるのでは。
- 自立支援の視点を大事にしてほしい。

改善計画 概要

- 隔月で個別面談を実施する。
- 個人評価表を使用し、それぞれが改善計画に取り組んでいるか定期的にチェックする。
- 地域やスタッフからの意見は、随時年間計画に反映させ期限を決めて計画的に改善を目指す。



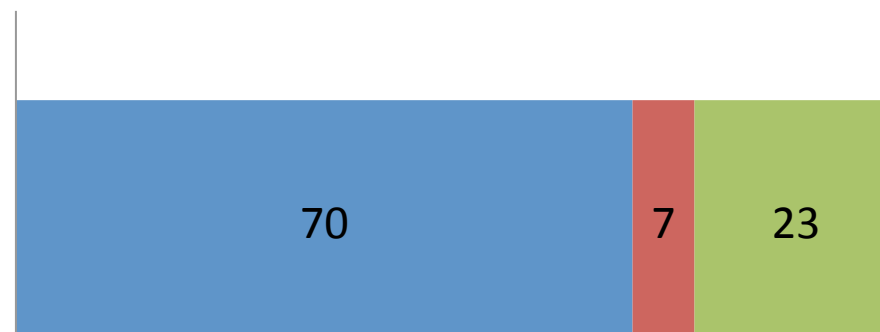
事業所外部評価

事業所のしつらえ・環境

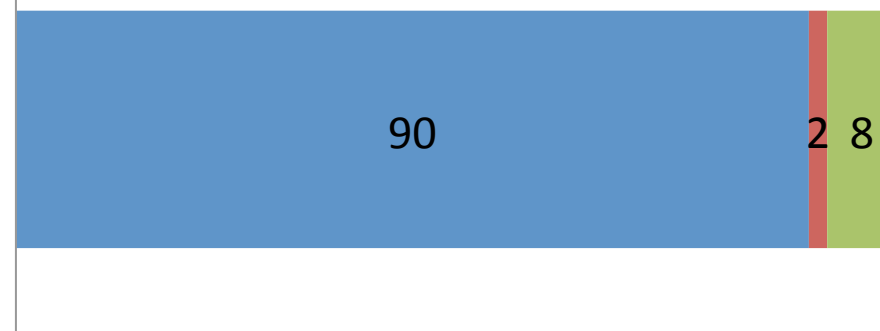
事業所外部評価 事業所のしつらえ・環境



家族や地域の方が事業所に入りやすい工夫がなされていますか？



事業所内外に不快な音やにおいなどはないですか？



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■ はい ■ いいえ ■ わからない

事業所外部評価 事業所のしつらえ・環境



● 聞き取り調査から

- **関係性**: 事業所への入りやすさには、地域の方と利用者・スタッフの関係性が大きく影響する。
- **ハード**: 庭の花やイルミネーションなどの取り組みは評価されている。
玄関は入りづらいが、縁側やウッドデッキからは気軽に交流しやすい。
- **不透明性**: 中で何をしているのかわからないため、どの時間帯に行けば良いかわからず行きづらい。
庭で活動しているときは話しかけやすい。
- **目的の有無**: 事業所に立ち寄る目的がない。イベントの時は行きやすい。
- **感染症への警戒**: 事業所は人の出入りが多いため、風邪にかかるのが心配であまり行きたくない。
- **プライバシー**: 噂話をする場になっているのではないか。

● 聞き取り調査を受けてスタッフから

- 地域の方に来所を呼びかける目的とは？
→利用者^と地域の方の関係を切らないため。また、新しい関係を築き存在感のある暮らしをして頂きたいから。
- 来所者に対応しづらい時間帯もある。
- 利用者と接点のない方の来所(スタッフと話がしたくていらっしゃる方)の対応に困る。
→スタッフが間に入ることで、利用者との会話のきっかけを作り新たな関係性づくりができるのでは。

事業所外部評価 事業所のしつらえ・環境



● 改善計画

1. 来所者を受け入れる時間を決める。(10:30~11:30・14:00~15:30)

利用者のケアにあてる時間帯の来所を避けていただく。

また時間を決めることで、今まで関わりのなかった方も安心して来所して頂けるようになる。

2. 地域の方には事業所内での噂話は控えていただくよう声掛けする。

プライバシーを守るため、「この場で話すのはやめましょう」など、声掛けする。公の場であることに配慮して頂く。

必要であれば「相談」という形で話を聞く。

3. 利用者と地域の方の接点を増やすため屋外での活動を増やしスタッフが会話のきっかけを作る。

庭での体操や、畑での作業、地域行事への参加などを通し、利用者と地域の方のつながりを作れるようスタッフが間に入って会話のきっかけを作る。

4. 消毒液や手洗いうがいを促すポスターをわかりやすい位置に設置し、地域の方に感染症対策に取り組んでいただく。

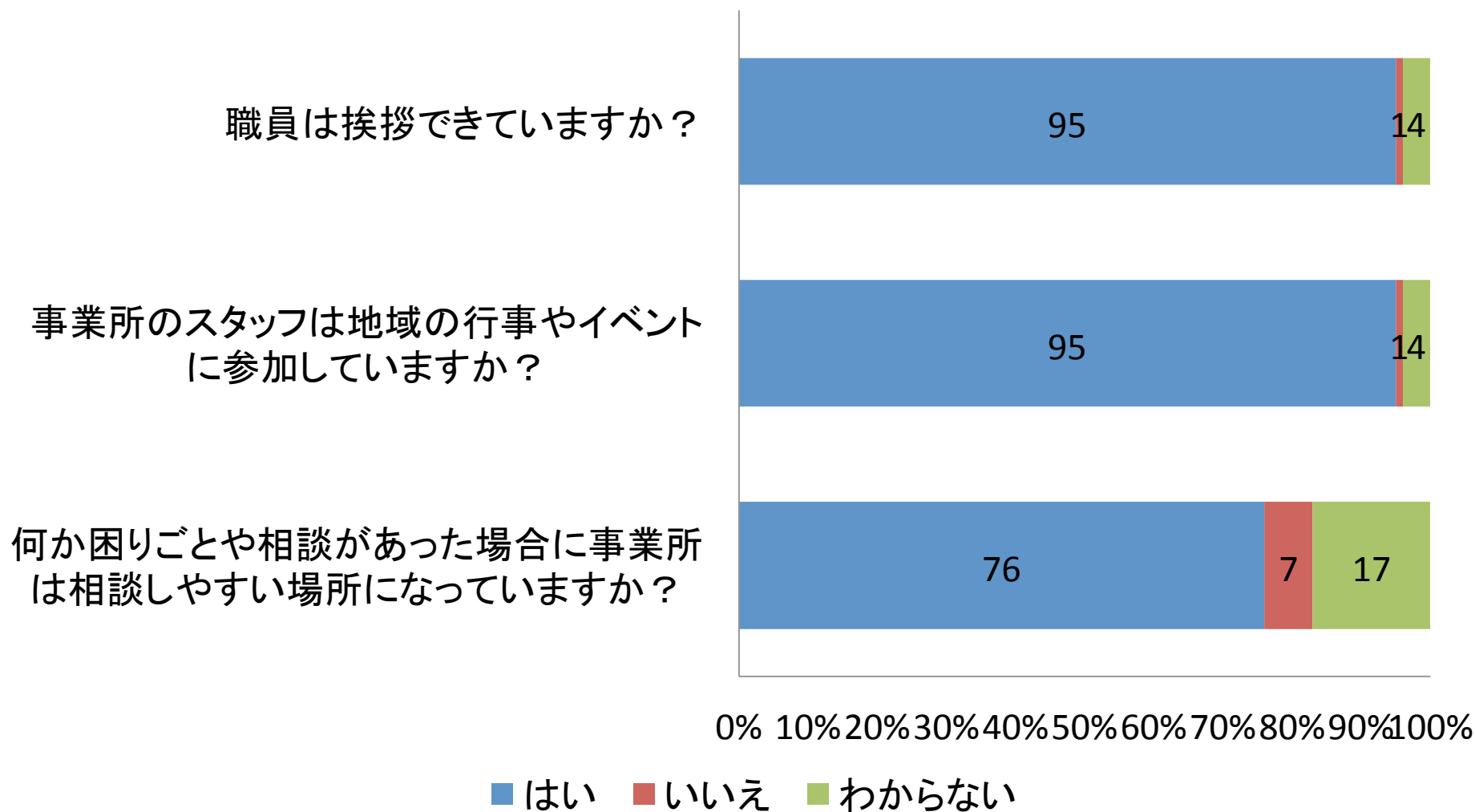
利用者を守るのと同時に、地域の方に感染症対策への啓発を行う場となる。



事業所外部評価

事業所と地域のかかわり

事業所外部評価 事業所と地域のかかわり



事業所外部評価 事業所と地域のかかわり



● 聞き取り調査から

- **スタッフの関わり:**スタッフが様々な行事に参加して皆と関わることは大事だと思う。
- **遠慮:**費用は役場から出ているから迷惑かけたらいかんと思って頼らないようにしている。
- **自立:**自分でできることは自分でやり続けていきたい。できるだけじぶんで解決したい。
- **羞恥:**配食を頼もうかと思ったこともあったけど、周りからなにか言われそうで怖い。
事業所に立ち寄ることで、年寄りあつかいされるのではないか。
- **信頼:**たからのスタッフは人がいいから相談しやすい。
- **不信:**なにかあれば診療所のほうに相談する。
相談したら島の人みんなにしられそうな気がして相談しにくい。

● 聞き取り調査を受けてスタッフから

- 若い人よりも高齢者の方が事業所に足が向かないのは、周りの目が気になっているからではないか。
- 料金を払っているかどうかを気にする高齢者が多い。
- 自分でできるという気持ちが強い。
- 事業所の利用に対する抵抗が強いことは、利用し始めた時に対応が難しくなる可能性がある。
- 高齢者は、老人会などのもともとある組織を活かした方が集まりやすいのでは？

- 島民が交流できる場づくりを、今までは事業所が主体で作ろうとしていた。
→現在は見守り支援活動や、学校・イマキラ園などの社会資源が充実している。
→たからが主催ではなく、他組織と連携していきたい。

事業所外部評価 事業所と地域のかかわり



● 改善計画

- 1. 「世話になる場所」ではなく、「自分でできることを助ける場所」であることを周知する。**
機関紙や、普段の交流を通して自立を助ける場であるということを地域の高齢者に伝えていく。
- 2. 高齢者が集まる場を、老人会活動や見守り支援活動をバックアップすることで作る。**
たからの利用を遠慮される方も集まりやすいよう、事業所は老人会などと連携しバックアップに回ることで関わっていく。
- 3. たから主催だった交流の場づくりを、地域資源と連携し取り組んでいく。**
島民同士が知り合う場づくりを、他団体や地域の方と連携して、企画・実施を進めていく。

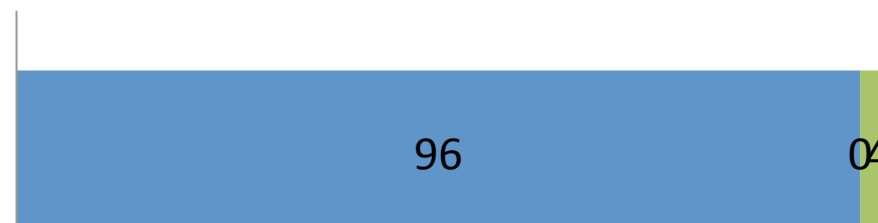


事業所外部評価

**地域に出向いて
本人の暮らしを支える取り組み**

事業所外部評価 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み

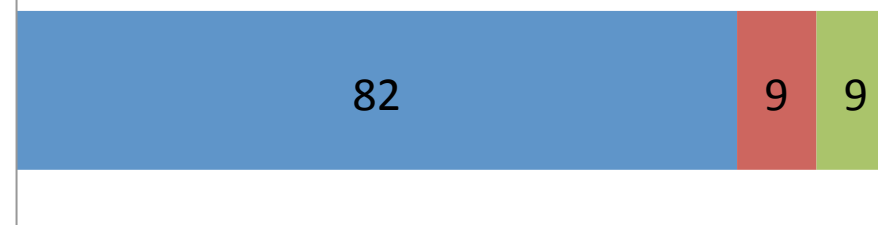
利用者を事業所の中だけに閉じ込めていませんか？



利用者以外の心配な方に事業所は関わっていますか？



事業所の利用者は地域の行事やイベントに参加していますか？



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■ はい ■ いいえ ■ わからない

事業所外部評価 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み

● 聞き取り調査から

- **交流:**事業所に人が出入りすることが利用者にはいいと思う。利用者もよく地域の行事に出ている。
- **高齢者への声掛け:**スタッフがもっと家に遊びに来てくれたらうれしい。
話しかけてくれるだけでもうれしい。
近隣の高齢者に関わってくれてるのがわかるので、安心感がある。
- **地域のつながり:**昔は近隣同士で助け合っていたが、今は顔も知らない関係になっている。

● 聞き取り調査を受けてスタッフから

- 利用者は地域の行事にはよく参加できているが、地域の高齢者の参加は少なくなってきた。
- 高齢者は、困っていることを自分からはあまり相談しない。
- スタッフが利用者に関わることで、これまで本人を支えていた地域の方とのつながりが薄くなったのでは。
- 高齢者が助けを必要としていることは？
→畑や果樹を守りたいという思いを強く感じる。できなくなる前に、次の世代に受け継ぐ支援はできないか？
- 地域の人が高齢者を支えるのも簡単ではない。スタッフは地域の人のことよく知っていく必要がある

事業所外部評価 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み

● 改善計画

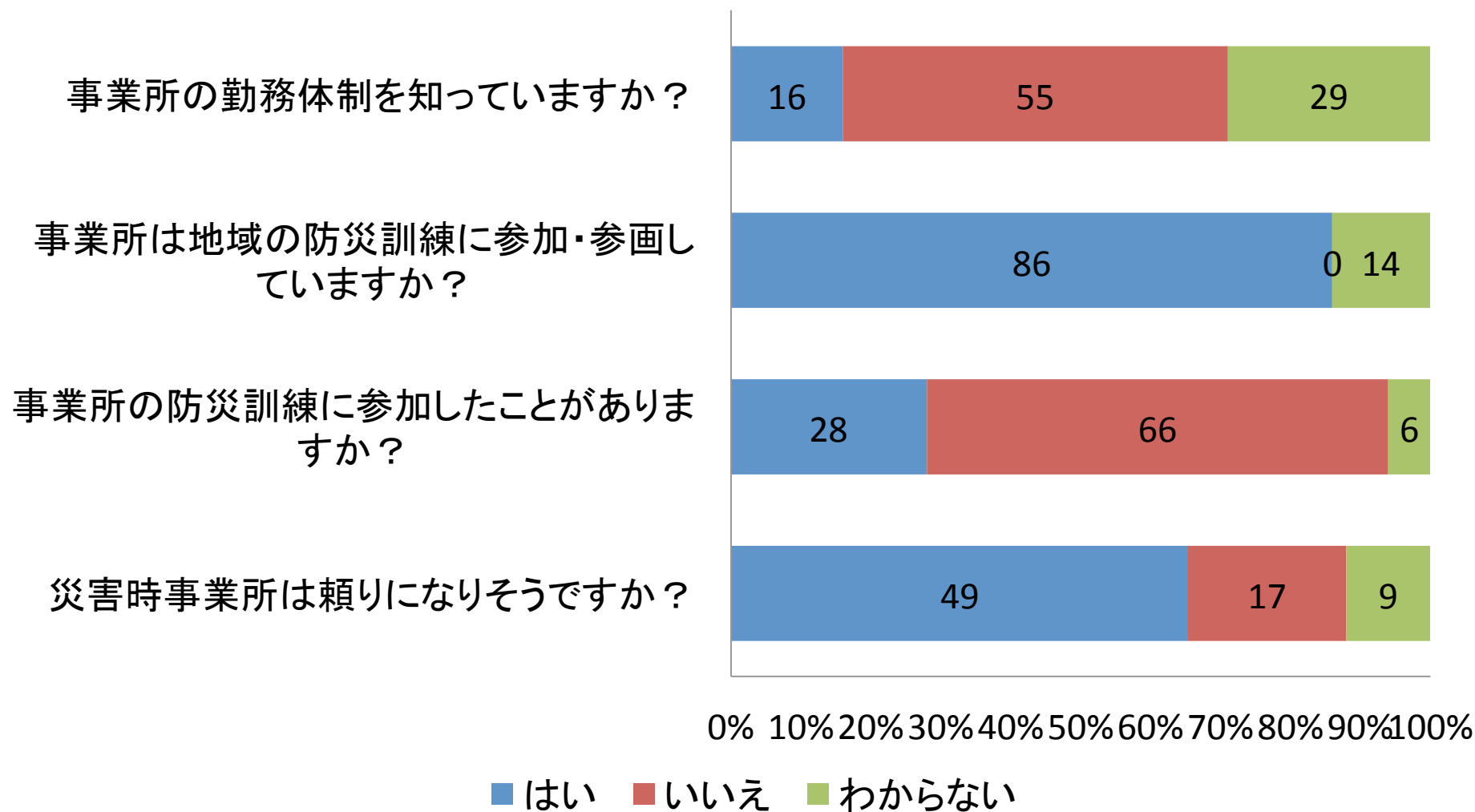
1. **スタッフのほうから地域の高齢者のもとへ出向き、心配な高齢者との関係を作る。**
こまめな声掛けにより、困りごとを相談しやすい関係を作る。
2. **たからスタッフは本人のニーズに気づき、適切に地域資源とつなげることで問題解決を行う。**
今まで本人を支えていたつながりを大事にし、スタッフだけで問題解決をしない。
3. **田畑や果樹を高齢者の活躍の場として利用し、高齢者同士や若い世代との交流を促す。**
地域で高齢者を支えるつながりづくりのきっかけとして、田畑や果樹の世話を地域の方と一緒にを行う機会を作る。



事業所外部評価

事業所の防災・災害対策

事業所外部評価 事業所の防災・災害対策



事業所外部評価 事業所の防災・災害対策



● 聞き取り調査から

- 消防団: 消防団との情報共有はしていて欲しい。

消防団とたからスタッフで住宅地図を使った情報共有をできて、わかりやすかった。

- 情報: たからは地域の高齢者の状況を把握しているという点で、災害時頼りになる。
- 利用者を第一: まずは利用者を重点的に非難させてほしい。

2か月に一回はスタッフだけでも自主訓練をしたほうがよい。

- 地域への期待: いざという時は地域の人同士で助け合えるから大丈夫。
- 訓練: 非常時のために、近隣の人も車いすの使い方を知っておきたい。

● 聞き取り調査を受けてスタッフから

- 4月のうちに、避難時に協力をお願いする教職員とは関係を作っておく必要がある。
- 台風前の戸締りは、高齢者のために地域で取り組む必要がある。
- 消火器の有無、防災無線が聞こえているかなど確認しておくべき。
- 消防団との避難訓練を定期的に継続したい。

事業所外部評価 事業所の防災・災害対策



● 改善計画

- 1. 4月中に近隣教員との関係づくりの場を設ける。**
早い段階で事業所、スタッフ、利用者それぞれについて知っていただき緊急時の協力をお願いする。
- 2. スタッフは隔月で災害時の動き方について確認、シミュレーションする。**
スタッフの動き方や、連絡方法について確認を行う。
- 3. 消防団との情報共有を定期的に行い、緊急時の動き方を確認する。**
避難時に手助けが必要な高齢者について定期的に情報共有をする。

次年度の年間計画



- 夕涼み会など交流の場づくりについては、計画段階から地域の方に入ってもらおう
- 地域の啓発として、地域の方が参加できる勉強会を計画する。
- 自主防災訓練
- 消防団との定期的な情報交換会

- 毎月 全体ミーティング
研修
見守り支援会議
29の日
機関紙の発行

- 毎週 月曜日 サロン
水曜日 麺の日 豆腐作り 振り返りMT
木曜日 機能訓練体操 見守り支援会議

- 隔月 個別面談
事業所内での避難訓練

地域の声

学校
イマキラ園

高齢者に
子供たちの先生に
なって欲しい

高齢者が
学校のイベントに
来てくれてうれしい

イマキラっ子も
サロンなどで一緒に
活動したい

伝統を
教わりたい！

年配者と若者の
交流をもっと！

生きがいきり活動で
ビーバーを
使ってるのが心配・・・

青年団や婦人会でも
認知症についての
理解や関心を持ってほしい

大事にしてきた
びわ畑を引き継げる
人がいたらな

若い人たちに
島唄をうたって
もらいたい

子供の名前を覚えて！
孫が島にいないから子供の
存在がうれしい

自主防災組織が
あった方が
いいんじゃないかな

浜おれに参加する
高齢者が少なくなった

あいさつを
大事にしてほしい

要望があれば
特技を教えてあげるよ

生きがいきり活動
楽しい！

